

# 号外

# 琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

2015年(平成27年)

1月23日(金)

発行所 琉球新報社  
郵便番号 〒900-8525  
那覇市天久905番地  
©琉球新報社2015年

# 糸満初のセンバツ



# 2度目の甲子園

第87回選抜高校野球大会(3月21日から12日間・甲子園)の出場校を決める選考委員会が23日、毎日新聞大阪本社で開かれ、糸満が出場32校に名を連ねた。糸満の選抜大会出場は初めてで、甲子園の土を踏むのは2011年夏以来、2度目となる。

糸満は昨年の県秋季大会で準優勝。春秋を通じて7度目の出場となった九州大会では、初戦の2回戦で初勝利を飾って勢いに乗った。2度の延長戦を制するなど粘り強さも発揮し、各県の第1代表を次々と破って初の決勝進出を果たした。最後は九州学院(熊本)に1点差で惜敗したが、糸満の代名詞でもある機動力を生かした堅実な野球は目を引いた。

九州大会の4試合で先発しエースに成長した金城乃亜、打率5割超を記録した大城龍生、守備での好判断が光る遊撃手の池間誉人など、走攻守とも大きな穴はない。「全員野球」で目指すは甲子園初勝利だ。

選抜大会には秋季地区大会の成績などを参考にした一般選考29校、21世紀枠3校が出場。組み合わせ抽選会は3月13日に行われる。

◆糸満高校(糸満市糸満1696の1)

1946(昭和21)年創立。校訓は「大望実践、自主分別、立命感動」。特進クラスと普通クラスがあり、生徒数は1078人。文武両道を掲げ、部活動も活発。野球部は46年創設。2008年からOBの上原忠監督が指揮を執り、11年夏に初の甲子園出場を果たした。卒業生には沖繩水産を率いた故裁弘義氏や宮国椋丞投手(巨人)らがいる。

センバツまでの歩み

県秋季大会(9月6日~10月5日)

▽1回戦

糸 満 5-1 那覇工

▽2回戦

糸 満 6-0 南風原

▽3回戦

糸 満 8-0 八重山 (七回コールド)

▽準々決勝

糸 満 8-0 名護 (七回コールド)

▽準決勝

糸 満 5-3 首里

▽決勝

中部商 3-2 糸 満

九州大会(10月25~30日)

▽1回戦

佐賀学園

糸 満 00002000

30402200X112

(七回コールド)

序盤から猛攻を仕掛けた糸満が最後まで流れを支配した。一回2死から大城の中前打を皮切りに4連打で3点を先制。三回は相手守備の乱れで好機を広げ、金城旭の三塁打などで一挙4点を奪って突き放した。金城旭はこの試合3打席連続2点適時打の活躍だった。

▽準々決勝

糸 満 010200012

0010000014

明豊(大分)

(延長十一回)003/69

終盤に大きく展開が動いた激闘を糸満が制した。糸満は鋭みな攻撃で6-2と大きくリードした九回に4点を追い付かれた。だが、延長十一回に大城の2点適時三塁打などで3点を挙げて再び突き放した。十回からリリーフした安谷屋も無失点で反撃を許さなかった。

▽準決勝

神村学園(鹿児島)

糸 満 0000010120

1000010010

(延長十回)1X0/43

糸満が準々決勝に続く延長戦をサヨナラで制した。逆転された直後の八回に比嘉良の適時打で同点。延長十回は太田が二塁打で出塁し、2死一塁から安谷屋の左前打で試合を決めた。先発の金城乃は七回途中まで2安打の好投。リリーフの安谷屋は交代直後に失点したが、九回以降は三者凡退で切り抜け、流れを呼び込んだ。

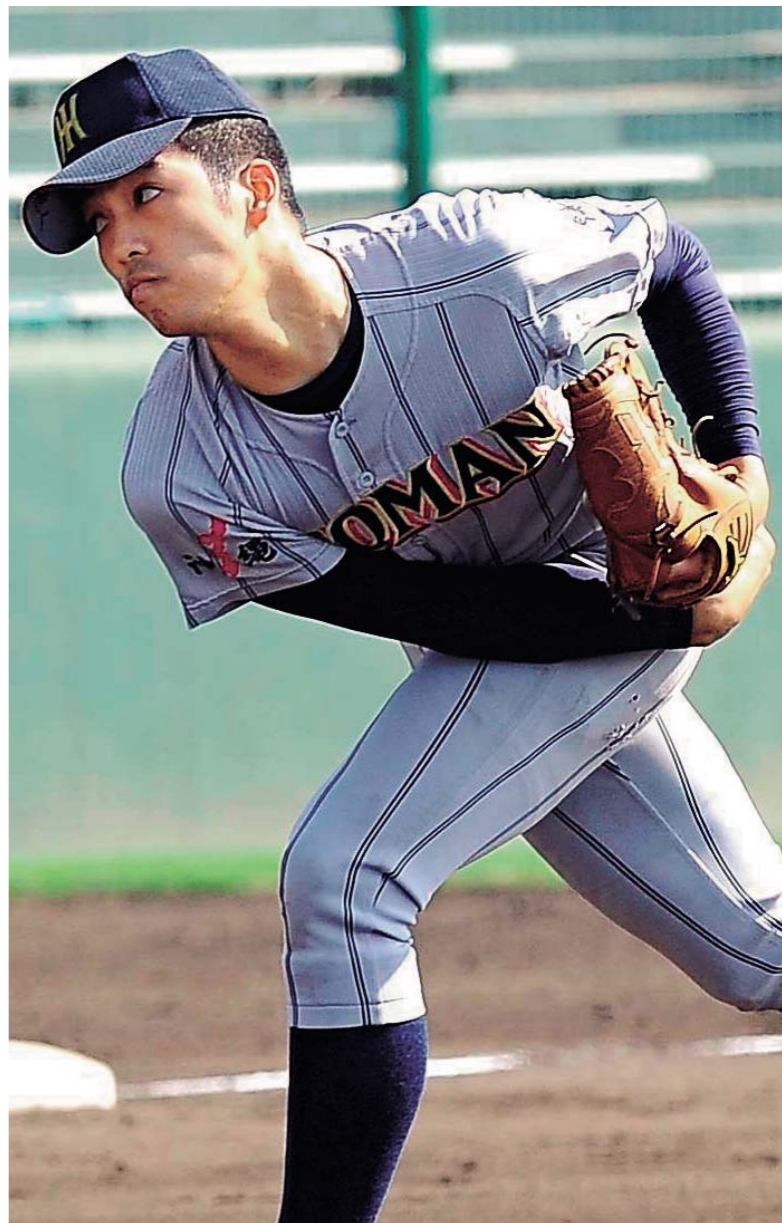
▽決勝

糸 満 1000000200

000000031X0/43

九州学院(熊本)

糸満はリードを守れず、サヨナラ負けした。一回一死三塁、大城のスクイズで1点を先制。七回にも1死一三塁から比嘉良のスクイズと金城旭の内野安打で2点を加え、そのな攻めた。しかし八回、先発・金城乃が攻めこまれたところで継投策に入ったのが裏目に出た。この同点とされ、九回は再びマウンドに上がった金城乃が満塁策の後、痛恨の押し出し四球を与えた。

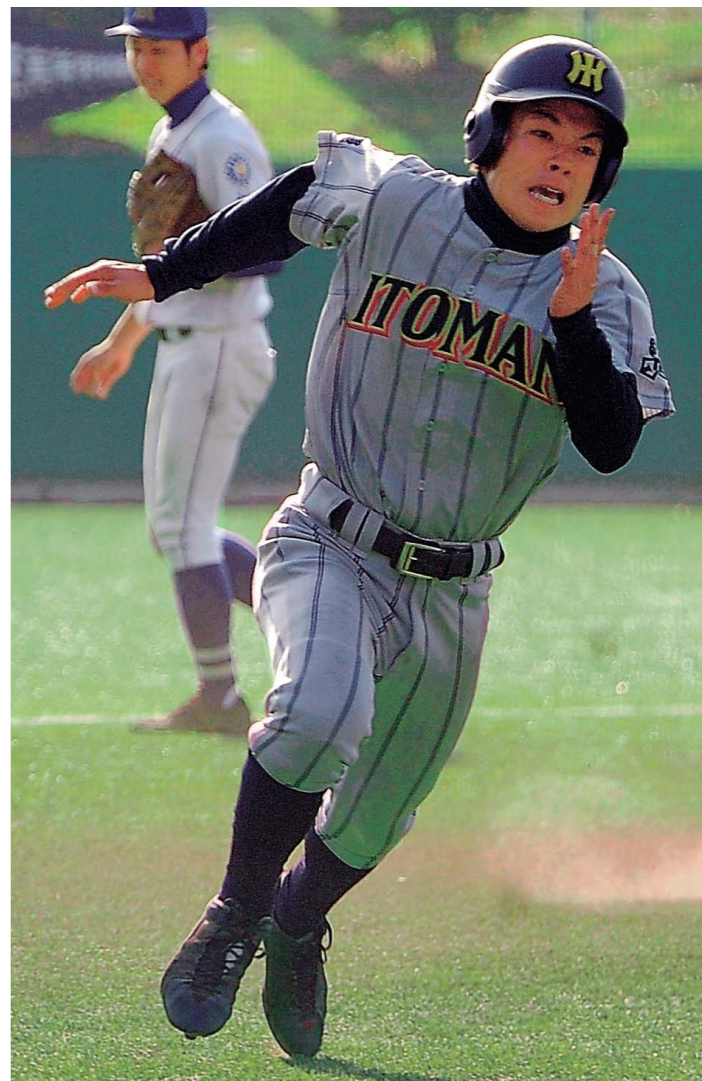


秋季九州大会決勝で堂々としたピッチングを見せる糸満のエース金城乃垂

挑む大舞台



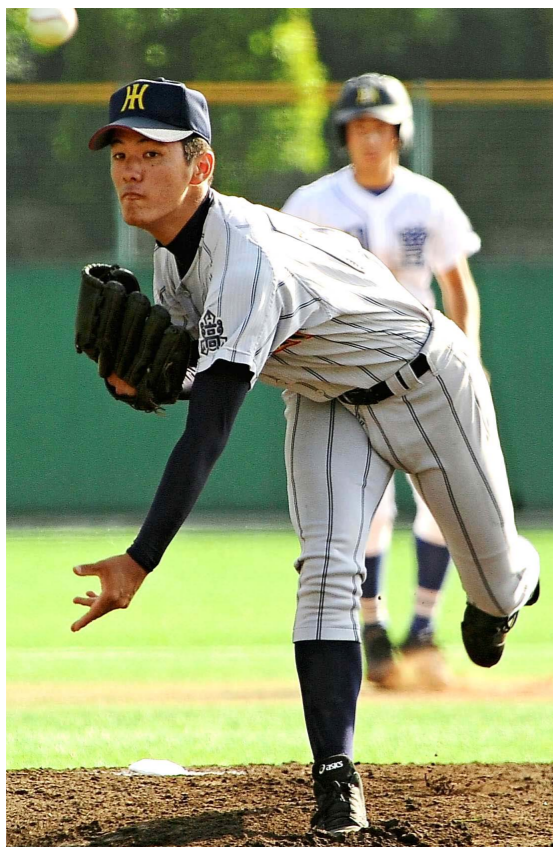
サヨナラ勝ちで秋季九州大会の決勝進出を決め、喜びを爆発させる糸満ナイン



秋季九州大会準々決勝で本塁を目指し激走する岡田樹



県秋季大会準々決勝で猛攻の口火となる右越え二塁打を放つ池間誉人主将



秋季九州大会準々決勝で10回から登板し、冷静な投球で相手打線を封じる安谷屋正貴



秋季九州大会決勝でスクイズを決める比嘉良平



秋季九州大会で準優勝し整列する糸満ナイン